



社 会 福 祉 法 人



るうてるホーム No.134

(後援会ニュース)

2015年9月1日発行



「50周年記念礼拝・式典」

理事長 滝田浩之

来る10月10日(土)は社会福祉法人るうてるホーム50周年記念礼拝・式典がるうてるホームを会場に開催される予定です。

役員一同、50周年をどのように迎えるかということを考えて、私たちは今回の礼拝・式典の中心は「お客様」であることがふさわしいと考えました。

2年前の竣工式の時には、多くの教会の方々(関西地区のみならず、総会議長までお越しくございました)、地域の方々、行政の方々を駆けつけてくださり、励ましと祈りを頂きました。

しかし、その時、お客様はご自分の引越後の整理、また利用して下さっているお客様については、竣工式のためにご利用を控えて頂かななくてはならず、まったくお祝いに関わって頂くことができなかったのです。

よって今回の50周年は、日頃ご利用下さっている利用者の方々、入居の形で利用して下さっているの方々、そしてその関係者の方々への感謝の時としたい。そのような思いをもって準備に取り組んでいます。加えて、日頃働いて下さっている職員の方々も竣工式の時は下支えをしてくださいましたが、今回は一人の参加者として祝福の輪に加わって頂きたいと考えています。後援会としてお支えくださっているの方々には、是非このことを覚えて頂き、記念礼拝・式典への祝福をお祈り頂けると幸いです。式典の目玉は二つです。

一つは四條畷市の「なわて子ども太鼓」の方々には和太鼓を披露して頂くことになっています。三十人をこえる地域の子供たちの、大きな、そして元気のある掛け声と、日頃練習している威勢のよい太鼓の音が、参加される方々の心を強め、励まして下さることでしょう。

またもう一つは四條畷市の観光大使でもある桂南光師匠の高座や米朝一門の方々による出し物などをして頂く予定です。落語を通して、るうてるホームの中に大きな笑いの輪が起こることを期待しています。この笑いの輪に、職員の方々も共に連なり、るうてるホームで働く喜びを新たにしたいのです。

何よりも、私たちは「支えられつつ、支えて」、法人の中心に「お客様」がいますが、私たちがお客様を支えつつ、同時に、お客様に支えられている。「共に生きる」群れであることを、この出来事を通して共有したいと願っているのです。

記念事業といたしましては、竣工時に設置した鐘を定期的に鳴らす装置の設置、また居室にて朝の礼拝や多目的室での講演会などを視聴できる設備の設置、「50周年版支えられつつ、支えて」の出版を計画しているところです。

後援会のみなさまのお支えを心から感謝しつつ、これからはるうてるホームをお支え頂けますようお願い申し上げます。

「ルーテル社会福祉協会 総会に参加して」

ケアハウス 中村みどり

8月24～25日はルーテル社会福祉協会総会に出席しました。

あまりなじみのない会合かもしれませんが、社会福祉協会は30年以上の歴史を持っています。ルーテル社会福祉協会は、ルーテル教会に関わりのある社会福祉法人やNPO法人が名を連ね、年に1回、お互いの働きのルーツを確認し、また相互の働きを励ましあっています。現在、加盟団体は12法人ですが、ルーテル教会にゆかりのある法人は別に6法人ほどあり、ルーテル教会の社会への働きの広さを教えられています。

具体的には、九州の慈愛園、キリスト教児童福祉会や静岡のデンマーク牧場福祉会、東京の東京老人ホーム、ベタニヤホーム、千葉ベタニヤホーム、NPO法人あけぼの会の方々と今年も出会うことができました。このような出会いを通して、東京老人ホームとは、主任級以上の職員が交流し、法人の理念の中心にあるキリストの愛に基づく人材育成とはどういうものかということを経験して学んでいます。

今年は、私たちの法人の理事でもある西原雄次郎先生から、先生が理事長を務めておられる、社会福祉法人おぞら会の設立から30年以上の歩みとご苦労をお聞きすることができました。先生の知的障害者への思いは深く、熱く、時間を忘れるほど熱心に語ってくださいました。ご自分の障害のことから始まり、大学時代の知的障害を持つ方との出会いをお話してくださいました。「主張することのできない状況に置かれている知的障害者に関わる者は、いつも、その代弁者としての役割を担っていかなくてはならないと思いながら、いつも取り組んでいる」という先生のお話を聞きながら、私自身の認知症を患いながら生活されている方々への働きを見直す機会となっただけでなく、地域の厳しい差別や偏見の現実の中で自分ほどのくらいまで、お客様の立場

に立つことができるだろうか、そんなことを心に思い巡らす時となりました。

翌日は、キリスト教児童福祉会の横浜の事業所である聖母愛児園についてお聞きすることができました。もともとカトリックの修道会の運営していた聖母愛児園が、どうしてルーテル教会に関わりのあるキリスト教児童福祉会と法人を一つにすることになったのか不思議だったので興味深く聞きました。

1953年の黒髪事件（龍田寮事件）というのをみなさん御存じでしょうか。今から60年以上前に、まだまだハンセン氏病への差別や偏見が強かった時に、ハンセン氏病の親を持つ子どもへの偏見も強く、この子供たちの就学が地域やPTAの反対で認められないという事態に対して、この子供たちを受け入れ就学させるという宣言をした児童養護施設が、この聖母愛児園の前身の社会福祉法人であり、私たちルーテル教会系の広安愛児園（キリスト教児童福祉会）であったというのです。この60年前の出来事をシスターたちは覚えていて、シスターの高齢化によって運営の先行きに不安を持たれた聖母愛児園の引受先として広安愛児園（キリスト教児童福祉会）が選ばれたというのです。命をかけて理念を貫く法人の強さと確かさ、そしてそこに生まれる連帯の現実を教えられ、本当に励まされる思いでした。

年に一度の会合ではありますが、同じキリスト教理念に支えられた施設の方々との交流は大きな刺激であり、大きな励みです。

私たちの働きもまた、大きな刺激になるようなものでなくとも、小さな、小さな心を込めた働きが、他の法人の力となっていくことを信じて、これからも取り組んでいきたいと思っています。

「るうてる法人会連合総会」

部長 廣瀬雅典

8月25～26日、るうてる法人会連合総会に参加しました。

この会は、例年、ルーテル社会福祉協会総会に続いて行われます。先のルーテル社会福祉協会が、主にルーテル教会に関わる社会福祉法人、NPO 法人の働きが集まりに対して、この法人会連合はルーテル教会に属する学校法人、幼稚園、保育園、社会福祉法人、そして教会（宗教法人）が一堂に会して、イエス・キリストを中心としたそれぞれの働きを、「宣教」という大きな枠組みの中で捉え、それぞれの働きが有機的な一つの大きな働きになることを目指して設立されました。

今年ルーテル学院大学において教授として働いておられた清原慶子氏（現三鷹市長）より講演を頂き学びの時を持つことができました。先生は、行政の働きはファシリテート（合意形成、相互理解のために公平な立場で調整にあたること）にあることを強く意識され、三鷹市内にある様々なリソースを結び付ける働きを大切にされてきたことを語られ、市民の持つ力こそ、地域の様々な課題を解決していく力だということをお話してくださいました。

先生のお話でとても興味深かったのは、地域再生のカギは、古くから住んでおられる方々と、新たに転居して来られる方々が地域を新たに創世していくことにあるとい

うお話しでした。古い方の主張が通るだけでなく、あるいは新しく転居されてきた方々の思いが実現するだけでなく、双方が新しい地域を創世していく。私たち、るうてるホームも、新しい転居先において、これまで住んで来られた方々と共に、新しい地域の創世の一翼を担いたいという思いを新たにしました。

そして、その時、先生が言われたことは、その双方がいつも互いに評価を共有することだとおっしゃったことが心に残っているのです。

今、多業種連携ということがよく言われます。そのような場に身を置くということは、自ずと他の業種から評価を受けるということです。この時、私たちは素直に自分のしていることに対する評価を受けることができるだろうか、そして、それを受けて変化し、新しく仕事を見直し、創世していく、その課題の大きさと大切さを教えられました。

セッションの中で、るうてるホームの建築委員会の委員長として、経緯をお話する機会が与えられました。多くの施設運営に責任持つ方々から、私たち職員の働きが、素晴らしい取り組みだったと評価して頂くことができました。このことも感謝して報告させて頂きます。

「ケアハウスへの入居をお考えの方へ」

相談員 松下弘志

ケアハウスでは現在入居申し込みを受け付けています。

ケアハウスるうてるは、全国どこからでも、60歳以上で自立した生活を営むことができる方は入居することができます。現在、ケアハウスでは様々なキリスト教の教派の方が入居されておられます。また、もちろんキリスト者でない方も多く利用くださっています。

利用料等は利用される方の収入によって

差がありますが、およそ月10万円程度から利用することができます。是非、ご検討頂けますと幸いです。

後援会ニュースをご覧になっている方、あるいは、その関係者の方のお申し込みを職員一同心よりお待ちしております。

お問い合わせ、資料請求などは、072-878-9372（ケアハウス直通）、中村か松下まで遠慮なくご連絡下さい。

